

静岡中心市街地の特徴と課題

○中心市街地は『おまち』と呼ばれ、「想い」によって人々と深く結びついている。量的な関わりの「集散と回遊」に対し、「想い」は人と街を深く繋ぐ質であり、体と心のよりに、共に静岡の中心市街地が生き続ける上で不可欠の要素となっている。

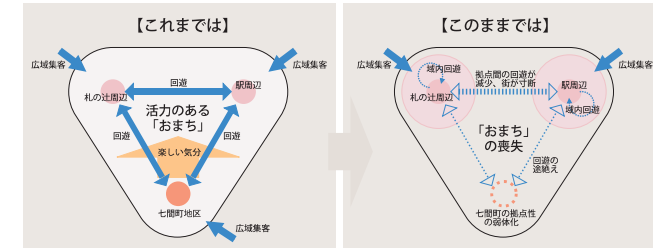
・静岡の中心市街地は、かつて程ではないものの、高い活力を維持し続けている。
・中心市街地は札の辻周辺、JR静岡駅から静岡鉄道静岡駅周辺、七間町の映画館街周辺の3つの拠点と、これらをつなぐ呉服町や七間町の商店街、これらに抱かれた両替町などの飲食街で構成されている。
・周囲には業務施設が立地し、背後には数多くの高校や中学校が立地する。
・3拠点は、特色の違いと位置関係の妙により、休日をはじめ、平日においても、近隣に立地する業務施設や学校から多くのサラリーマンやOL、学生等、様々な人々を集め、回遊させてきた。
・また、静岡の中心市街地は、市民から「おまち」と呼ばれている。「おまち」には、中心市街地が「機能」を超え、「わくわく感」とともに「親しみ」を備えた「想い」の対象となっている姿が表現されている。
・人々は「おまち」を気にかけて、「おまち」を語り、訳もなく「おまち」に足を運ぶ。
・「集散と回遊」の量的な関わりに対し、「想い」は人と街を深く繋ぐ質として街に命を吹き込み、中心市街地の活力を支えている。

○七間町地区は、楽しい時間で人々を満たし、街に送り出し、3拠点の中でも特に、街に対する「想い」を醸成する拠点として重要な役割を果たしてきた。

・七間町で映画を見ることで、人々は楽しい時間を過ごし、共有し、その時間は特別な記憶として刻まれた。
・七間町地区で過ごす時間は、「満足し、そこで終わる消費される時間」ではなく、「充足され、その先に向かわせる」充填される時間」であった。
・人々は映画を見た後、楽しい気分を味わって街に繰り出し、単に回遊するだけでなく、食事やショッピングで余韻を楽しみ、街と濃密に関わった時間を楽しい思い出として記憶した。
・故に、七間町地区は、地区にも街にも「想い」を宿らせることができた。

○駅周辺、札の辻周辺の2拠点を集積が高まる一方で、囲い込みや分裂が進行しつつある。七間町の映画館の撤退は、集客機能が失われ回遊範囲が狭まることに加え、街への「想い」を醸成場と機会が失われることを意味し、「おまち」の喪失が危惧される。

・近年、駅直近の紺屋町やケヤキ通り周辺に大型開発が集中している。これにより遠方からの来街者の増加が期待されるが、一方、若者を中心に回遊範囲の狭域化が進み、地区ごとで世代分離が進行しつつある。
・また、札の辻周辺においても大型の開発が進行しているものの、駅周辺と札の辻周辺が、共に活動が施設内もしくは域内で完結する拠点となる場合、かつてのような拠点間の往来が維持されるには限られる。
・このように大型小売店に特化した環境では、東静岡駅で予定されているモール、近年のネットショッピング、新幹線で1時間の東京と対峙するでは、あまりに脆弱である。
・このような状況下における七間町の映画館の撤退は、集客機能が失われ回遊範囲が狭まること以上に、街への「想い」を繋ぐ場と機会が失われることを意味し、「おまち」の喪失が危惧される。



七間町地区及び周辺の現状と性質

○100年以上続く市民文化の中心

・七間町地区は芝居小屋や映画館といった100年以上続く市民文化の中心。
・世代を越え市民の意識の中に連続と受け継がれる土地の記憶。
・江戸時代からの町に近く、寺社も多く立地し、庶民的雰囲気。

○寄り付きの場としての資質

・地区に近接するおでん横丁や別雷神社横のいづちおでん街は、路地の屋台式雰囲気味わえ、静岡の中心市街地では稀有な例。
・別雷神社前には常に地元の人たちがたむろしている。神社前の雰囲気や交番により入り隅のような空間となっていることも影響か。

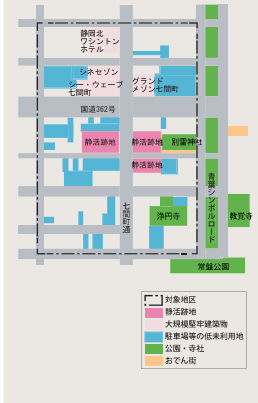


○幹線道路に隣接する大規模敷地

・国道362号線と七間町通りの交差点に位置。
・3街区に跨る隣接する約2,700㎡の大規模敷地が同時期に発生。
・隣接して大規模な平面駐車場が存在。

○周囲の基盤施設は江戸時代のままの街割りで変化に乏しい

・江戸時代の城下町の街割りが残る。
・暮盤のみで盤外としているが、平坦であることもあり、単調で人や活動が宿るよみに乏しい。
・街区厚は40m程度であり、街区内部での計画自由度には制約がある。
・これらは対象地区を含む静岡中心市街地に同様の傾向。



○周囲は堅牢建築物に混じって老朽化した小規模なビル、低未利用地がモザイク状に分布

・国道362号以北の七間町通り沿道には大規模な堅牢建築物。
・高密度に市街化しているが、駐車場等の低未利用地も隣接して散在。
・周囲の小規模なビルには老朽化したもの多数。一方で高層マンションの立地が進む。
・これらは対象地区を含む静岡中心市街地に同様の傾向。

○隣接して大規模なオープンスペースが存在するが、イベント以外の利用率は低い

・地区に隣接して、青葉シンボルロード、常盤公園が存在する。
・青葉シンボルロードは多くのイベントで活用されているが、別雷神社前などの一部を除き、平時の利用率は低い。
・また、常盤公園は昼夜を通じ人影はまばら。共に街に開かれていますこと、施設との関わりが薄いことが要因か。



地区整備のコンセプト

～共に創り、分かち、振り撒く～ 『しあわせな時間』

- ◆「おまち」は「想い」でできている。
- ◆七間町地区は、地区にも街にも「想い」を宿らせる拠点としての役割を担い続ける。
- ◆与えられ、消費される楽しい時間から「共に創り、分かち、振り撒く『しあわせな時間』」へ。

◇様々なしあわせの情景に合わせて眺える、多彩なオーダー空間

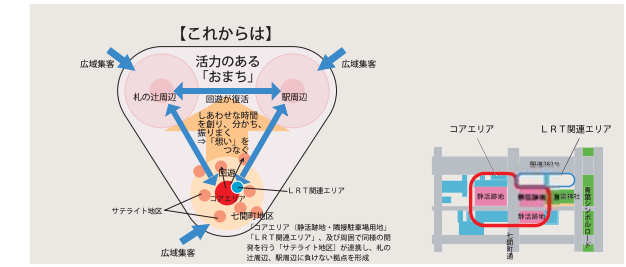
・様々なしあわせの情景に合わせ、多様な人々を招き、溜まり、関わり、誘われる「多彩な空間」を、適度に係わり合いを持たせて展開

◇静活跡地から、周囲に連鎖的に展開し、連携して一体的拠点に

- ・静活跡地の大規模な空閑地を活かして「先行的にコアエリアを整備」
- ・拠点性の強化と、周囲のポテンシャルの向上を図る「LRTの導入」
- ・静活跡地の周囲の空閑地を機能転換し「サテライト地区を展開」

◇市民の想い、意欲と個性を活かすマネジメントによる持続的発展

- ・コアエリアの事業化、管理運営、サテライト地区との連携により3段階で成長するマネジメント
- ・創る文化、「想い」を集めて小劇場の運営の力に
- ・サテライト地区の意欲と個性を活かす「ゆるやかな連携」



市民参加の動向

○大道芸で街を使い、参加する喜びに覚醒

・市民主導・市民参加の運営で、世界最大に成長した「大道芸ワールドカップin静岡」。
・多くの市民がクラウンや裏方として準備から協力し、観客は一体でイベントを盛り上げる。
・市民ボランティアによる他イベントへの参加など、他活動への発展も見られる。
・クラウンスタイルコンテストや、ポスターのコンペ等を通して市民参加型イベントが定着。



○おでんのイベントに多くの人ばかり

・今や全国的な知名度の「しぞーかおでん」。
・青葉シンボルロードなどで開催されるイベントには多くの市民が集う。
・生活文化の一つであるB級グルメを通じ、これまで希薄だった「静岡っぽさ」の意識も高まり。

○見られる快感

・駅の構内などの人通りの多い場所に立地し、ガラス張りでの視線を浴びるキッチンスタジオが盛況。
・外から見られることを意識した、テラス風のカフェや意欲に席を並べるサロンも街に増加。
・駅通りや広場で若者がダンスや音楽のパフォーマンスを行っているが、時折、規制で排除されている。

○オープンゼミに多くの参加者

・静岡大学や県立静岡大学が主催するオープンゼミには定員を上回る申込み。
・回帰の世代が多く参加し、サロニックな役割も担っている。
・近年、楽器の教室等も活況。

○市民による文化活動の活性化

・静岡市クリエイター支援センターからクリエイターが育ち、活動の場に対する需要が高まっている。
・市民が主催し、クリエイターと幼稚園児がコラボして壁画を描くイベントに多くの参加者。

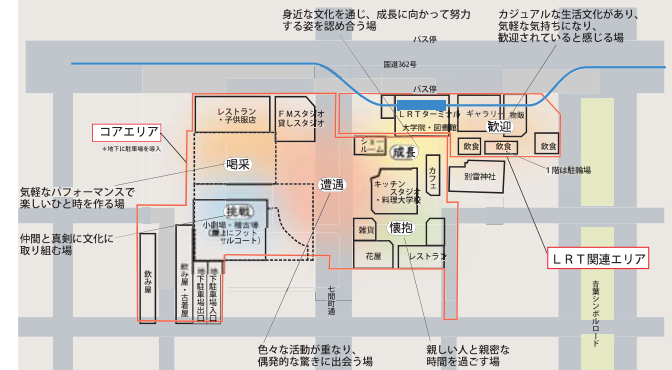
○市民が人を育て、文化を創ってきた伝統

・静岡はサッカー王国として多くのプロ選手、日本代表を輩出してきている。
・このような人材は、市民によって育成されてきた。
・まちが育てた人材は地元のクラブで活躍し、次の世代を育成し、伝統と想いを繋いでいる。

空間構成・ネットワークの方針

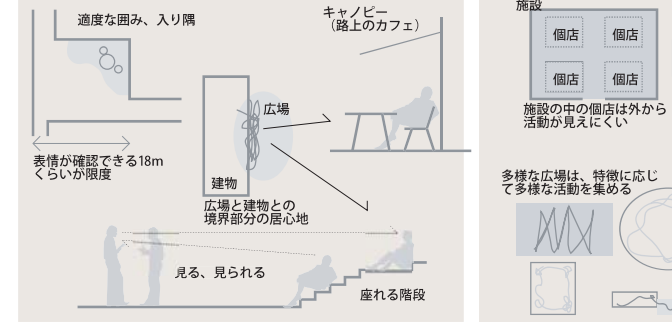
□空間構成・機能導入

- 様々なしあわせの情景に合わせて眺える「多彩なオーダー空間」
- 市民がクリエイターとなる「身近な文化・生活文化」
- 市民活動の中心となる「小劇場」の導入



○心に訴え、人を溜め、活動を活性化し、関わりを増やし、人を誘う空間・設えの考え方

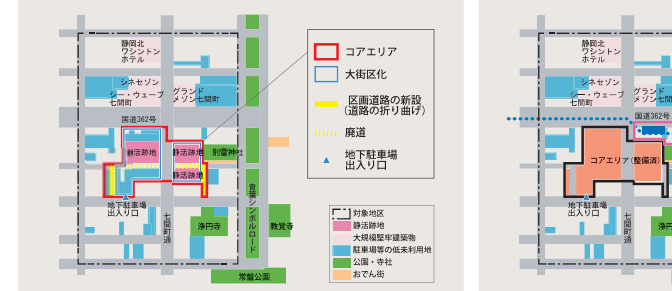
- 《人を溜める》
 - ・広すぎない広場
 - ・適度な囲み、入り障、見え隠れ、アーチ・段差
 - ・中間領域、広場と建物との境界部分(縁側、テラス、デッキ、ポルティコ、庇地)
 - ・語りかける装置(行燈、手書きの看板、ベンチ、花)
- 《活動を活性化する、関わりを増やす》
 - ・多様な広場
 - ・機能を外から見せる形態
 - ・施設と広場、路地との一体化
 - ・パブリックアート、水、
- 《人を誘う》
 - ・連なる広場、路地
 - ・通り抜け、垣間見える、視線や視界の変化
 - ・奥、ひだ、重層



事業手順

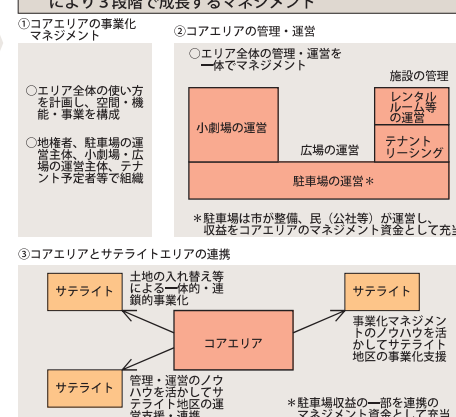
○コアエリア、LRT関連エリア、サテライト地区の3段階構成

- 《コアエリア》
 - ・静活跡地と隣接駐車場を核とする範囲
 - ・大街区化、フリッジ駐車場整備、施設整備をセットで先行的に事業化
 - ・フリッジ駐車場の整備に公的資金を導入し事業性を担保
- 《LRT関連エリア(コアエリアの一部)》
 - ・国道362号沿道の七間町通りと青葉シンボルロード間の宅地範囲
 - ・LRTの導入に合わせて事業化
 - ・LRT空間の確保に公的資金を導入し事業性を担保
- 《サテライト地区》
 - ・駅周辺等の低未利用地を中心とする地区
 - ・フリッジ駐車場の整備によるポテンシャルの高まりや先行地区の整備効果を受けて事業化
 - ・コンセプトや空間構成の思想を引き継ぎつつ、地区の立地環境や権利関係等の状況に応じた様々な手法を選択

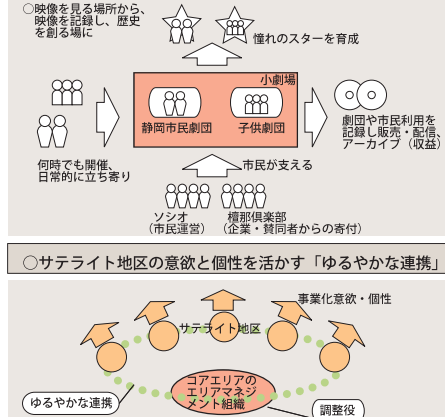


マネジメント

○コアエリアの事業化、管理運営、サテライト地区との連携により3段階で成長するマネジメント



○創る文化、「想い」を集めて小劇場の運営の力に



□地区外のサテライトの可能性

